

Blossamにおける自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 4 月 14 日

事業所名 Blossamジュニア上越春日山教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			
	2 職員の配置数は適切である	33%	66%	他教室からのヘルプはあるが足りていないと感じる。送迎、個別療育、突発的なことがあると特に。	今年度は職員の不足を感じるようなタイミングであったが、来年度は新しい職員が加わるため、改善されると思います。職員同士声を掛け合ったり、配置場所や活動内容を工夫し全体の動きを見ながらご利用者様に目が届くようにしていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%		活動と遊びの部屋を分けられている為利用者にもそのルールが入っていると感じる。段差があり、重心の利用者が移動する際は職員がその都度対応に当たっている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	66%	33%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	66%	シフトの関係もあり、散発的で細かいところまでできているとは言えないものの一人一人がほかの職員が記入した支援記録や連絡ノートを見るなどして職務や療育に当た	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	66%	療育だけでなく幅広い面で外部機関による客観的な評価は必要だと感じる。	よりよい業務のために第三者委員会から評価をしてもらい、改善を図っていきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		前年度より確実に意識して研修に参加するようにしている。	職員の資質向上のためにこれからも月2回ほどのペースで研修を行っていく予定です。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66%	33%	事業所の性質上標準化されたアセスメントツールを積極的に用いる必要性は高くないと感じる。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		特に個別支援については以前より細かく打合わせし設定している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		日々の振り返りを職員間で行い自分が感じた事や見たこと以外にも利用者の成長や変化について記録に残している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		他の職員の意見や記録などが広い視野で利用者を見ることへの意識に繋がっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%			
関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	33%	66%	相談員を介してのやり取りがメインで医療機関との会議の機会が少なく直接的なコミュニケーションは難しい。相談員との連携をより大切にしている。	必要が生じた場合にその都度対応できるよう今後も相談員との連携を密に取り、療育を行います。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		直接的なやり取りはないがケース会議などで情報共有を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
口との連携関係機関や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		100%	コロナ禍で難しい面がある。対事業所として一緒に活動することはできないが、利用者自身は園に通っている為障害のない子供との関わりはある為そこでも含めて考えている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している		100%	コロナ禍で難しい面があるができるだけ戸外へ出かけ地域参加できるようにしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	33%	66%	コロナ禍で難しい面がある。また職員のスキルにも未熟なところがあつたり職員数もなかなか大々的に実施でき	スキルを高めていくために研修を行っていきます。職員間で話し合い、統一感をもって相談に乗り、保護者様に寄り添うようにしていきます。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		誕生月の面談は大切な機会である。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあつた場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		事業所内で必要な連絡があるときは丁寧にわかりやすい手紙で知らせるようにしている。	
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	33%	66%	マニュアルを作成しているか十分でない点があると思う。また、訓練が実施されていない。	職員間で作成されているマニュアルを再度確認し、訓練を行っていきます。又、保護者様への周知も徹底していきます。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	33%	66%	防災頭巾などはあるが備品は十分でないものがある。実施されていない。	年2回訓練を行う予定です。訓練だけでなくいろいろな方法を用いて災害への意識を高めたいけるように心掛けていきます。
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。